

郷土を知る 昔々の そお市

冊

生涯学習課 文化財係 ☎ 0986-76-8873

第67回



現役の守護神 ～住吉神社の神王面～

末

吉歴史民俗資料館では「住吉神社の神王面」という阿吽一對の面を常設展示しています。この神王面は毎年11月住吉神社の流鏑馬および豊祭が行なわれる時期に限り、展示ケースから神社へ帰還し、現役で役目を果たしている特別な資料です。

神王面は大飛出面（黄色）、大癡見面（紅色）と呼ばれる阿吽一對の面からなり、形態としては能を舞う際に役者が着ける能面に分類されます。大飛出面は菅原道真の怨霊が柘榴を吐き出した表情がモチーフとされ、大きく見開いた目と開いた口が特徴的です。一方で大癡見面は口を一字に結んだ表情に特徴があります。それぞれに能の演目で役どころがあるそうです。

しかし同社に伝わるこの一對の面は「能面」ではなく「神王面」という名で呼ばれるのはなぜでしょうか。これは面が果たす役目が違うからです。仮面研究の第一人者出村卓三先生によれば、「神王面は神の依り代面的な役割と王面（守護神面）的な役割を併せ持つ面」とされています。つまり住吉神社の神王面は、同社の祭神を邪気から守護する役目を持つた面といえます。神王面は同社の11月の例祭で、拝殿正面の左右の柱に掛けられ大切な役目を果たしているのです。

神王面は寛保2年（1742）薩



住吉神社の神王面



祭神を守護する
神王面

摩の面打ち師出目満如の作です。製作から100年余り経った嘉永6年（1854）には、藩主島津斉彬が面の彩色補修を命じたというエピソードが残ります。住吉神社が島津家の崇敬を集めていたことを示す資料の一つでもあります。

この機会に、ぜひ住吉神社の拝殿を覗いてみてください。本殿の祭神を左右の柱に掛けられた神王面が守護しているという意味がご理解いただけるかと思えます。本来の場所で本来の役目を果たす神王面は展示ケースで見える様子とはまた違うものに感じられるのではないのでしょうか。「住吉神社の神王面」は、これからも現役でその役目を果たし続けていくことでしょう。

曾於市史編さん情報局

曾於市にゆかりのある資料・写真・情報をお持ちの方は生涯学習課までご連絡ください。



昭和30年代、戦後の人口増や食糧難などが社会問題となり計画出産の普及活動が全国的に行われました。これは末吉町法楽寺婦人会による活動の写真です。撮影場所は末吉小学校旧校舎の玄関前と思われます。



アクセス

曾於市末吉町二之方3995番地1

メモ

住吉神社の流鏑馬

▼11月16日（日）午後2時頃から

住吉神社の豊祭（神事のみ）

▼11月23日（日）

※神王面は、それぞれ当日のみ拝殿内に掛けられます